



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (DC会館)
電話 (鉄電) 千葉 29355・2939番
(公) 043(222)7207番
FAX 043(224)7197番

2001.3.13 No.5282

シニア制度差別地労委に結集を 中野委員長・田中書記長が証言

「シニア制度」―検修・構内業務の全面的な委託攻撃粉砕、「シニア協定」により再雇用の機会を奪われた3名を守りぬぐために、3月22日の「シニア制度」差別地労委第2回審問の傍聴動員に全力で結集しよう。

JRは、千葉地労委の「要望」を履行しろ！
前回の第1回審問(2月20日)において千葉地労委は、公益委員会決議の決定としてJR東日本に「要望」を口頭で行った。その内容は、

申立人3名は、平成13年のそれぞれの誕生日月末をもって退職となってしまうため、被申立人は申立人3名に係る定年後の再雇用先について早急に具体的な情報提供等を行うことを要望する。

というものをた。

これは、「シニア協定」により再雇用の機会を奪われ、再雇用先が実施する試験も受験することができないなど露骨な組合差別により他の対象者との格差が拡大している状況の中で、これ以上の不利益が拡大しないよう求めたものであり、地労委闘争勝利に向けた大きな一歩である。

動労総連合及び動労千葉はこの「要望」を受けてすでにJR東日本本社と千葉支社に対して

①「要望」を速やかに履行し、定年後の雇用の場を確保すること、②「シニア制度」からの除外など差別を行わないこと等の申し入れを行っており、今後団体交渉の場においても会社の責任を徹底的に追及していかねばならない。

「シニア協定」は認められない

一方、次回の第2回審問においては、前回の組合側主尋問に対して会社側による中野委員長への反対尋問及び田中書記長に対する組合側主尋問が行われる予定となっている。

前回審問では、中野委員長から「シニア制度」について、①現に働いている労働者の働く場所そのものがなくなってしまうこと、②今後10年先には鉄道固有の技術力を持たない鉄道会社になってしまふこと、③安全を確保するためには最低限の業務は直営で行うべきであり、そうしたことから「シニア協定」を到底認めることはできないとの立場を明確にするとともに、鉄道業務の委託とワンセットにした協定の不当性を明確にしてきた。次回の田中書記長に対する組合側主尋問においては、99年12月の「シニア制度」の提案以降のJR東日本との交渉経過等について細かく証言し、「シニア協定」の不当労働行為性を明らかにする予定である。

勝利命令獲得に向け、傍聴動員に結集しよう。



3・25三里塚現地へ

敷地内農民を先頭にして闘いぬく三里塚反対同盟は、三里塚闘争の勝利に向けて、3・25三里塚現地地総決起集会への総決起を訴えている。

暫定滑走路の破綻は明らか

政府・空港公団は、地元住民を全く無視して成田空港暫定滑走路工事を強行している。しかし、この暫定滑走路は、工事が進めば進めばその破綻性が明らかとなつていく。暫定滑走路北端に位置する東峰神社の立木が航空機の侵入面から突き出すことが確実となっており、立木を伐採しなければ暫定滑走路はさらに短くなる以外になくなってしまふ。さらに、暫定滑走路の誘導路には団結街道が「くの字」に食い込んでいる状況だ。

軍事空港化を阻止しよう！

また、インド西部大地震への援助を名目にして航空自衛隊のC130輸送機6機が成田空港から飛び立つなど、軍事空港化としての強化に向けて重大な踏み込みが行われている。反対同盟は、こうした反動的な攻撃と戦争への道を阻止する重大な闘いとして3月25日に全国総決起集会を開催する。車の両輪として闘う動労千葉の底力を発揮し、三里塚現地地総決起集会に全力で結集しよう。

反対運動潰しの土地収用法改悪

こうして三里塚反対同盟の闘いにより工事が大幅に変更され

「シニア制度」差別地労委 第二回審問

とき 三月二十二日(木) 一〇時から

ところ 千葉県地方労働委員会云

内容 中野委員長・田中書記長の証言

*全支部から傍聴に結集しよう